

福島第一原子力発電所 2号機原子炉格納容器 内部調査・試験的取り出し作業 X-6ペネハッチの開放(開き角度:約90°の全開放)等について

< 参 考 資 料 >
2023年10月16日
東京電力ホールディングス株式会社
福島第一廃炉推進カンパニー

- 2号機原子炉格納容器(PCV)内部調査・試験的取り出し作業については、アーム型装置をX-6ペネ※1からPCV内に進入させ、PCV内の障害物の除去作業を行いつつ進めることを基本的な計画としています。
- 当該X-6ペネのハッチ(蓋)を開放することから、4月14日までにX-6ペネ前に隔離部屋※2を設置することで、PCVの閉じ込め機能を確保しました。また、X-6ペネのハッチはボルト・ナット(全24ペア)で固定されていることから、ボルト・ナットの切断・取り外し作業等を6月19日から進めてきており、10月12日までに全ての切断・取り外しが完了しました。
- これを踏まえ、10月13日、X-6ペネハッチの開放作業(開き角度:約10°の微開放)を実施し、完了しました。

<10月13日までにお知らせ済み>

- 本日(10月16日)、午前8時01分からX-6ペネハッチの開放作業を行い、午前8時27分に開放(開き角度:約90°の全開放)したことを確認しました。(X-6ペネハッチの状況等はスライド2参照)
- 作業にあたっては、隔離部屋内にダストが飛散する可能性もあることから、周辺環境に影響を与えないよう以下の対策を講じたうえで作業を行っており、本日の作業において、隔離部屋周辺に設置している作業管理用ダストモニタ指示値が、作業停止判断目安値※3まで上昇していないこと等を確認しています。
 - ✓ X-6ペネ内からのダスト飛散抑制を目的に、隔離部屋内を窒素で加圧
 - ✓ 隔離部屋の閉じ込め機能は事前に確認していますが、隔離部屋内からのダストの漏れ出しを早期に検知することを目的に、作業中において、隔離部屋周辺のダスト濃度を遠隔操作室で常時監視
 - ✓ 加えて、ダスト飛散を防止することを目的に、隔離部屋周辺にHEPAフィルタ付局所排風機を設置
- 引き続き、X-6ペネ内部の堆積物除去に向け、安全を最優先に作業を進めてまいります。

※1:作業用のPCV貫通口(ペネトレーション) ※2:バウンダリ(PCV閉じ込め機能)を有する3つ(①～③)の部屋

※3:作業を一時中断し状況等を確認する為の作業管理上のアラーム設定値(1.0×10^{-6} ㏪/cm³(α), 7.0×10^{-4} ㏪/cm³(β))



図1. X-6ペネハッチの開放作業前の状況



図2.X-6ペネハッチの開放作業中の状況



図3.X-6ペネハッチの開放後の状況①
(X-6ペネを右側から見た状況 左がハッチ(蓋))



図4.X-6ペネハッチの開放後の状況②
(X-6ペネを正面から見た状況 左がハッチ(蓋))